

第15回 全日本民医連共同組織活動交流会 in 山梨

～「富士のふもとに思いをはせ、コロナ禍に立ち向かい、つながり広げる共同の“わ”」～

サブテーマ「憲法・平和・いのち・人権を大切に誰ひとり取り残さないまちづくりを」

9月11日午後から12日午前中の2日間、オンラインで開催されました。

全国335の会場で2605人と個人参加もありました。岐阜健康友の会は3会場を設定、職員参加も含め36名の参加でした。

大会テーマは、現状の課題として大切にしたいものが盛り込まれました。また、山梨会場での開催は、1980年代に倒産の危機に直面した山梨勤医協の和議再建の困難な闘いの教訓を学ぶ、という意味も込められていました。

集会のオープニングは、笛吹高校の「すいれき太鼓」の演奏。オンラインではなく、実際に舞台で見る事ができれば、さらに感動できる演奏でした。

記念講演「貧困・格差による健康問題と共同組織の役割」と題し京都大学教授近藤尚己氏が講演されました。山梨県が健康長寿日本一になった理由とし、昔からあった「無尽講」の参加で高齢者の健康が保たれている等、社会的ネットワークの多い人ほど長生きするということが示されました。また社会的処方という、社会の中にある健康課題を考え、ケアの機会を患者とともに創るという活動の紹介もあり、ここに共同組織の役割が求められています。

現地企画として「山梨勤医協の倒産から再建のたまたかいと教訓」という動画が上演されました。倒産という緊急事態中でも診療は休むことなく続けられ、和議再建への粘り強い闘いと、全国からの連帯と協力がそれを支え、何よりも山梨勤医



協の地域の中での強い信頼が再建を可能にしたようです。

2日目の分科会は7つのテーマ、「地域に広がる憲法9条・平和を守る取り組み」「いのちを守り、環境・福祉を向上させる取り組み」「安心して住み続けられるまちづくりの取り組み」「通いの場・居場所づくりの実践」「SDH・地域まるごと健康づくりの取り組み」「共同組織の“わ”を広げる取り組み」「民医連職員と共同組織がいっしょに進める取り組み」を19の分科会に分かれ、1分科会に7〜10ほどの演題発表がありました。岐阜は3つの分科会に参加しました。多くの演題には学ぶことのできるものがあります。

10月から「秋の仲間増やし強化月間」が始まります。これからの活動に生かし、岐阜健康友の会の仲間を増やしましょう！

岐阜健康友の会
 事務局長 熊崎 辰広

リニューアル工事が始まりました！

9月15日に岐阜市開発審査会から新病院建設の許可が出されました。現在、11月の病院本体着工を目指し周辺駐車場の整備中です。近隣並びにご来院の皆様には何かとご不便をおかけいたしますが、何卒ご理解とご協力をお願いいたします。

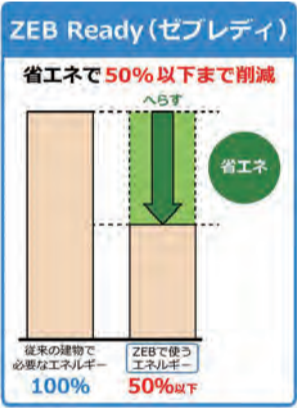
さて、新病院は環境に配慮した省エネ設備設計で、環境保全に貢献できるよう環境省の補助金事業であるZEB Ready (ゼブレディ)の申請を7月にしました。非常に厳しい審査でしたが岐阜県内の病院では初の対象事業建物として8月に認証通知を受け取ることができました。具体的には、ZEB認証された空調や給湯設備等を使用し、従来の建物で必要なエネルギー100%を50%以下に削減する取り組みです。屋上には太陽光発電も設置し、少ないながらも創エネにも取り組みます。脱原発を目指す事業体として、小さな一歩ではありますが、環境にも優しい病院建設を進めてまいります。

新病院建設委員会は、院長をはじめ医師4名、看護師2名、技術職1名、事務3名で毎月2回開催しています。主な任務は、予算内で各部門の詳細図面を確定し、機器類や家具などの仕器の選定なども行うことです。

この間、岐阜健康友の会の各支部から招いて頂き、新病院建設説明会をしています。地域に支えられとともに新病院完成を楽しみにしてもらえることが日々の業務の大きな励みになっています。今後も新型コロナウイルス感染症の心配は続きそうですが、感染対策を継続しつつ病院建設準備も遅滞なく進めてまいります。引き続き、よろしくお願いたします。



みどり病院事務局長 中尾 美絵



QRコードよりリニューアルの動画をご覧頂けます。



健康 春秋

九月十一日と十二日の二日間をかけて第二回全日本民医連共同組織活動交流会が開かれました。内容については本紙に報告していますが、その中で印象的に感じたのは、一九八〇年代の山梨勤医協の倒産と和議再建の道のりを記録した報告でした。二〇〇億以上の負債の発生は、本業以外の不動産投資の失敗にありました。多分この会社であればそのまま倒産してしまうところを、山梨勤医協をなくしてはならない。地域の民主的な医療の火を消してはならないという、地域の人々、働く職員の強い思いがありました。県からは倒産の警告もあり、また再建の途上での警察権力の妨害などもありました。それらの障害を一つ一つ機敏に対応しながらの再建でした。それと、全国からの連帯と協力の力もありました。岐阜からも山梨連帯支援委員会を立ち上げ、カンパと柿を送りました。同じころ、岐阜でも飛騨生協が倒産しています。負債総額四〇億ほど。これにたいし県内の生協では人的な支援活動をすすめました。私も店舗の売り場に立ったこともあり。また関西方面からの人的支援もあり、いくつかあった店舗を清算して、共同購入を主とした生協として再建されました。ここでも連帯の輪が大きな力となりました。民医連綱領のなかの言葉「科学的で民主的な管理と運営を貫き、事業所を守り」という一節があります。ここに山梨の教訓が反映しています。